

諏訪地域の語り伝承 紹介

茅野の語り手の8人の話掲載、「第五集」発刊



語り手8人の体験を聞き取りまとめた冊子を制作した「語り伝承グループ」

茅野市八ヶ岳総合博物館を拠点に活動する市民研究員「語り伝承グループ」(飯田美智子代表、13人)が、諏訪地域の人たちから聞き取ったそれぞれの歴史や出来事、生活などをまとめた冊子「諏訪地方の語り伝承 第五集」を発刊した。シリーズ第5弾の今回は茅野市内を中心に地産地消や漁業、狩猟などに取り組み8人の話を紹介している。(宮沢知史)

身近な人たちから話を聞いて日常生活の中にある雑事や諏訪地方の風土を記録し、次世代に語り継ぐと取り組む活動。2019年から年1冊のペースで制作している。今回も語り手の自宅や作業場で話を聞き、方言もそのままに会話形式の文章にした。表情豊かな写真や味わい深いイラストも掲載している。

今回は茅野市と諏訪市の採

録時58〜89歳の8人から聞き取った。内容は、安全でおいしい野菜を育てて給食に届けてきた人の話、豊かだったころの諏訪湖の漁業を知る漁師の話、三代にわたり狩猟をしている家族から聞いた猟の奥深さと繊細さの話、産まれたばかりの子熊の保護を依頼されて預かり飼育した話など、多彩な体験を収録している。

飯田代表は「一人ひとりの生活の記録を楽しんでもらえたら。読んだ人が周りの子どもたちに伝え、つなげてほしい」と話していた。冊子はB5判、145ページ。400部発行した。1部800円で八ヶ岳総合博物館で販売している。問い合わせは同館(電話0266・73・0300)へ。